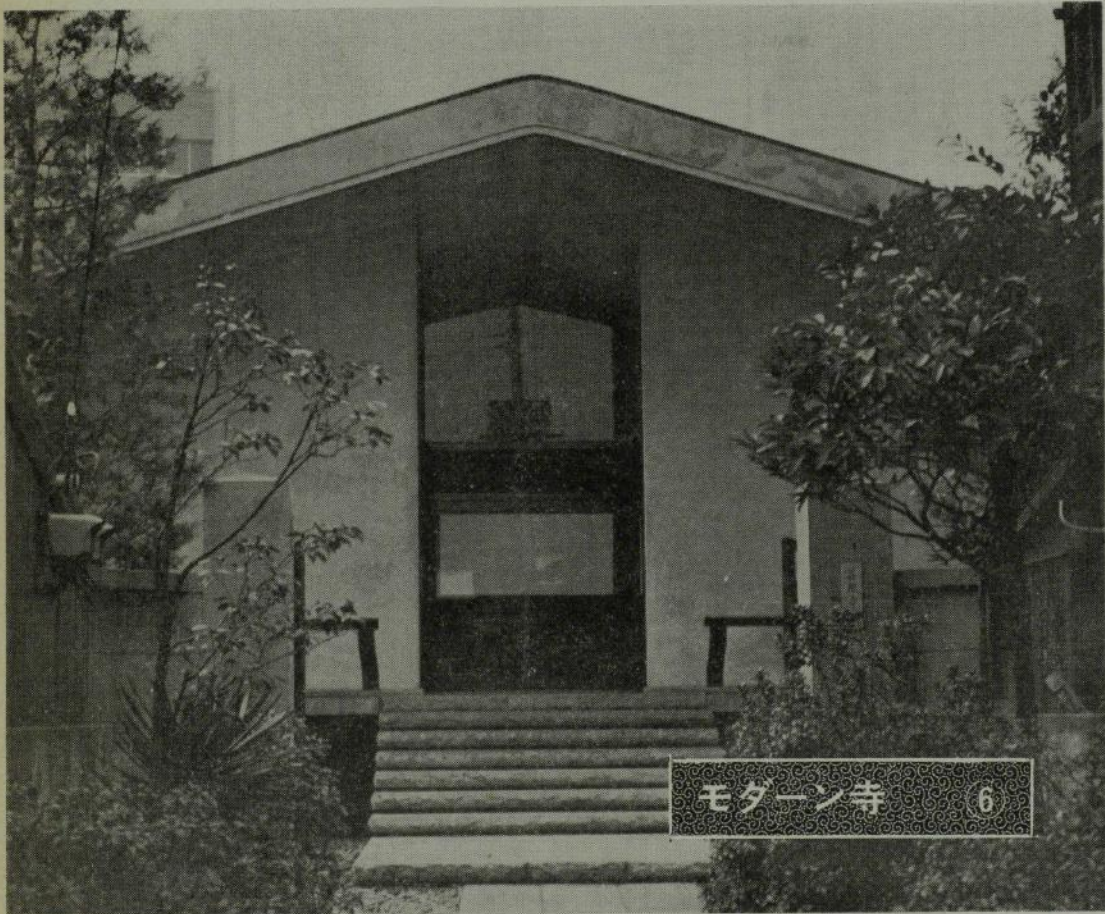


No. 133

3 / 43.

全 仏



東京・台東区善照寺(大谷派)

里から寺へ

本号に限り休載

一 現在、仏教寺院を中心としておこなわれている行事のほとんどは、祖先法要であり、死者儀礼に終始している。彼岸会もまた、そうである。そのために、しばしば、仏教の諸行事が無意味・無価値なものとして評されがちである。生きてゐる者の生きていくためのものとなっていないからである。このような批評は、たしかに現代の仏教界の痛いところをついているといえよう。

しかし、ふりかえって、それら諸行事が全く無用なものであり、意味のないものといきれる

彼岸の現代的意義

東洋大学教授

田村芳朗

か、どうか。やりよう、あるいは考えようによっては、現代的意義も見いだせるのではなからうか。いま彼岸会について、その点を検討してみたいと思う。

二

彼岸会は、春分・秋分(中日)をはさんで前後各三日にわたっておこなわれているものであるが、その由来としてあげられるものに、善導の『観経疏』定善義の説がある。その中で善導は、『観無量寿経の日想観を解説して、「唯春秋の二祭を取る。其の日、正東より出でて直西に没す。弥

陀仏国は日没の処に当りて、直西に十萬億の刹を超過す」という。この説に由来するとすれば、彼岸会の本来の意味は、春分・秋分を中心に日没のところをもつて弥陀浄土を觀想するにあつたといえよう。

そのような彼岸会は、日本では聖徳太子に始まるとの伝説が存し、四天王寺の西門に集まって落日を拝し、彼岸の浄土への往生を願う風習がおきた。文献の上からは、『日本後紀』第十三の大同年(八〇六)三月の条に、「春秋二仲月別七日、金剛般若経を讀ましむ」とあるのが初見である。ただし、ここでは亡き親王

の靈のためになされたものであり、また彼岸ということばは見あたらない。『源氏物語』あたりになると、彼岸ということばが見えてくる。

三

思うに、彼岸会には日本独特のものが感ぜられ、そこには日本固有の祭りの儀が加味されたふしがある。日本においては、古来、農耕生活にもつづいた季節儀礼が盛んにおこなわれ、その多くは春秋二期に集中している。祭りにさいしては、自然の靈ないしは祖先の靈を招きよせて、それをしずめ、またなぐさめ、その加護を願った。春秋二期の彼岸会も、そのような儀礼に関係があるといえよう。ちなみに、お盆も、もとは正月の祭りと同翼をなす民俗的行事であつたもので、それに仏教の盂蘭盆が結びついたと考えられる。日本古代においては、自然の事物や現象の中に

靈的なものを感じ、それを神として信奉した。そうして、ときに神靈がたたりをなすのではないかと恐れ、ときに利益を与えてくれるよう祈った。村の相談会などにさいしては、静かな山や森をえらび、そこへ神靈を呼びよせ、その神靈の力かりて相談をスムーズに運ぼうと工夫した。このような村の集会場が、神社のそもその始まりである。家族や氏族ができてくると、それぞれの家族・氏族に固有な神が、その集団のシンボルとして、守護者として立てられるようになる。これが祖先神の発生である。自然神や祖先神崇拜は、日本だけでなく、古代民族のほとんどに見られるものであるが、ただ日本の場合、現代にいたるまで存続してきたところに特色が存する。

仏教が日本に伝来すると、早速それに同化する。これが「仏教の日本化」である。本来の仏教では、そのような呪術的な神信仰を否定し、日本でも、専門の仏教者、たとえば親鸞などによって強くいましめられているが、日本の一般の仏教行事には、濃厚にそれがとりいれられた。彼岸会を含めて諸種の仏教行事が、もっぱら祖先法要と化していることも、ここに起因するといえよう。

四

ところで、日本に自然靈ないし祖靈信仰や祖先崇拜が現代にいたるまで存続してきたことをもつて、日本人の考えかたを低級なものとし、また、それに結びついた日本の仏教行事を無価値なものとして評し、ことに、異議がある。というのは、そういう信仰や崇拜が長く続いたのは、日本の島国という国情や四季適当に変化する気候・風土が、日本人をして自然順応的たらしめ、その結

果によるものなのである。日本の国情や気候・風土は今にいたるまで変らないものであり、したがって自然順応性もつづき、それに由来する信仰形態も存続したのである。

自然順応性にもとづいた日本の文化・風習・行事には、他国に見られない美しさを感じさせるものが多い。もちろん、社会的に実害をおよぼす迷信の類も存し、そういうものは捨てられねばならないが、たとえば虫送りや七夕まつりのときは、美しい年中行事として、存続の価値があるといえる。彼岸会も、そうである。

五

生きた者には背をむけて、ただ死者の霊にむかって法要を営むという現在のやりかたは、改められねばならないが、先祖回向は、生きている人々が永遠なる生命のつながりを感じ得るよすがとして、意味のあることであり、春秋二期の季節の折り目において、すこしてきた生活を反省し、あらたな生活への心がまえを養うものとして、彼岸会は、大いになされるべき意義がある。

特に現代人は生活の忙しさに追われ、静かに人生をふりかえる機会を失っている。またマスコミ文化や機械文明の重圧に押しひしがれ、自己疎外や人間喪失をきたしている。いまこそ、寺院は、人々の心のいこいの場として活用されるべき時であり、美しい季節の折りふしに人生・生活をふりかえり、永遠の生命の泉を汲みとる彼岸の行事が、推進されるべき時である。暑さ寒さも彼岸までということばが、彼岸会の意義深さを端的に物語っているといえよう。

各種専門委員会委員長名

(順不同敬称略)

総務専門委員

芳賀達宗・西寺律洲・美濃部薫一・新谷寛広・小倉俊明・高橋恵峻・古宇田亮宣・山本芳遵・板橋有成・築山定啓・望月亮欽・小熊寛澄・能登有兆・四宮正音・井上恵行・植松威

組織専門委員

北之内真龍・熊野龍夫・近藤英雄・西本梧作・永見聖宏・古川海祥・般口暉子・古屋道雄・山口智光・白川良純・椎谷健・神野真一・新美孝道・鈴木敏範・岩本昭典・和田聖公

国際専門委員

村野宣忠・桜井栄章・中山理々・寺田康順・井坂信興・鎌田良昭・藤井真水・細川量雄・壬生照順・瑞光由孝・小谷徳水・長田順海・中根専正・阿部龍文・岡野貴美子・坂口祐瑞・今井大彭

文化専門委員

伊東修己・伊藤道機・岩堀至道・内山憲尚・勝又俊教・金岡秀友・鎌田茂雄・叢良弘・榊原帰逸・塩入亮達・島田喜久子・田村芳朗・戸田浩暁・西義雄・早島鏡正・枇杷田義正・真溪義貫・摩尼清之・三輪美津子

全日本仏教徒(岐阜)大会
記録「われら仏教徒」発行

昨年10月開催された全日本仏教徒(岐阜)大会は多くの成果をあげたが、その記録を「われら仏教徒」として出版した。

内容は序編・式典会議編・檀信実部会編・仏教会編・企画準備編・報道編等にわかれ編集されている。一部1,000円で送料実費。全日本仏教会組織局へ申込み下さい。

—御贈答に!!記念品に!!布教用に!!—

- ◎全国観光温泉地1泊旅行に御招待
又は豪華なお品を御贈呈(輸入商品1口5万円毎)洩れなく
- ◎日用文化用品を5品御贈呈(輸入商品1口3万円毎)洩れなく

弊社取扱商品(印度・セイロン製)直輸入品

線香・白壇(香・製品)・沈香・民芸品(木彫・象牙・真鍮・其ノ他)等

お問合せは
全国総発売元



{法衣・荘厳・仏具}
贈答用・記念品

梅金商店

名古屋市中区岩井通り4の2 TEL名古屋<052>241-0901・1920

協賛 印度大使館・セイロン大使館

指定推薦 全日本仏教会・輸入元 かたばみ商事貿易部

◆詳細は御一報下さればカタログを御送附します

昭和43年 全日本仏教会新年懇親会開催

恒例となった、新年懇親会は去る一月二十九日午後三時から銀座の三笠会館四階大ホールで盛大に開かれた。

先ず、長岡慶信副会長の主唱により全員が三帰依文を唱和し、引続いて年頭の辞を大谷会長に代って長岡副会長が、又、来馬理事長が主催のあいさつを述べた。

来賓として川島正次郎自民党副総裁、宗派代表杉谷義周天台宗々務総長、地域仏教会代表木村正範愛知県仏理事長、団体代表山本杉仏婦理事長、各大本山を代表して川崎大師平間寺貫主高橋隆天師がそれぞれ祝辞を述べ、塩入亮忠師の発声で乾杯、祝宴にうつつたが、懇談はなごやかなうちにも、全仏によせる建設的な意見や、世相を反映しての仏教徒の団結を望む声が多く、五時半、吉岡棟一福島県仏会長の音頭で万歳を三唱して散会した。

当日出席者次の通り。(順不同・敬称略)

- 阿部龍伝・稲岡覚順・巖谷勝雄・今井大彰・石井 桂・石井真峯・岩崎宗秀・伊藤禰念・伊藤道機・内山憲尚・小野島元雄・岡野正道・大島忠雄・岡野貴美子・長田順海・岡本 薫・門屋大寿・鎌田良昭

- 金岡秀友・川島正次郎・笠原一男神谷豊信・川勝宗賢・北川有光・木村智広・木村正範・北之内真龍・熊野龍夫・黒田白純・倉沢豊丸・来馬道断・五島行宣・小峰順誉・近藤英雄・佐久間智周・桜井栄章・斎藤精鐘・清水谷孝尚・塩入亮忠・塩入亮達・神野真一・椎谷 健・四宮正音・白幡憲祐・杉谷義周・鈴木錦吾・杉谷和男鈴木敏範・関観康・関岡賢一・竹内良恵・高橋隆天・多賀谷崇峰・関口 宏・武田信亮・田中栄一・高橋恵峻・中外日報社・津川翠温・友松円諦・岡慶信・新美孝道・西寺律洲・西村輝成・能登宥兆・浜野堅照・広瀬寿美・福島泰信・仏教タイムス社・藤井真水・松本徳明・真溪義貫・三瓶顕厚・三浦義伝・壬生照順水野了仙・村瀬良彦村野宣忠・山本 杉山中浩文・山口貴美子



- 山田一真・安井謙・山田照祥・和光正安・若月正真・和久博隆・三輪美津子・高橋つね・船口暉子・上田花子・宮崎その・来馬秋子・川田聖見・大橋武夫・安藤寿雄・長岡美信

「全仏」購読お願い

この機関誌「全仏」は各宗派要路、都道府県仏などの加盟団体、そのほか外部関係に広く配付しております。

誌代 一力年送料とも二四〇円

全日本仏教会

昭和四十三年度

事業計画

歳入歳出予算

決定

去る一月二十五日京都智積院公会において全国宗務総長会議・常務理事会、一月二十九日東京築地本願寺において評議員会、理事会が開催され事業計画及び歳入歳出予算(「全仏」三月号五、六頁掲載等)次の要旨の通り決定した。

議案第一号 加盟団体の負担金に関する規程一部変更について

基本割(各種団体のみ)均等割についての増額案が承認された。

議案第二号 昭和四十三年度事業計画及び歳入歳出予算について

別掲五、六頁の通り承認された。

議案第三号 各種専門委員の委嘱について

別掲三頁の通り各師を承認した。

議案第四号 日本万国博覧会について

各宗とも多くの関心をもっているので慎重に結論を出す必要があるの要望。又、会館の建設は別途半永久的なものを考慮した方が良いとの声もあった。

全国宗務総長会議・評議員会・理事会も同様審議され、各々承認された。

昭和43年度 財団法人全日本仏教会事業計画

総務局

基本目標 本会の寄付行為第5条による目的達成のため、各種の事業遂行に必要な措置を講ずる。

1. 加盟団体との連絡提携を計る。
2. 財団の基金対策。

組織局

基本目標 本会寄付行為第5条の事業目的たる仏教運動の実践及び育成を中核とし、時代に即応した全一仏教運動を展開、構成団体の強化を計り、仏教の宣揚と団結を期する。

1. 第16回全日本仏教会会議岡山大会開催。
2. 地区別ブロック会議
関東甲信越（茨城）、中国四国（岡山）、東海（岐阜）、九州（熊本）、特に本年は中国、九州各県仏の加盟促進。
3. 公職選挙の対策（参議院議員選挙）
4. 権益に関する運動、（墓地問題対策の継続、宗教学法人在外資産返還運動への協力。時局対策等）
5. 地方仏教運動の推進。
（仏教徒大会、講演会等講師派遣）
6. 全国檀信徒組織化の推進。
7. 機関誌「全仏」の発行。
8. 第15回岐阜大会決議事項の処理（組織局関係）
9. 檀信徒部の受入れに関する寄付行為の研究と措置
10. 「全日本仏教会会議」寄付行為に入れることの研究と措置。
11. 全仏シリーズの作成。

国際局

基本目標 本会寄付行為第5条の事業目的たる世界各国W、F、Bセンター及び仏教諸団体との連絡、文化の交流促進を中核とし、仏教による国際親善と平和世界の実現を期する。

1. W、F、B大会において決定せられた事項の実施
2. 仏教徒の国際会議へ代表派遣。
イ W、F、B常任委員会へ代表派遣
ロ 世界仏教徒会議へ代表派遣
（正式代表の外に約30名位いのオブザーバーを派遣する）
ハ 世界仏教高等教育者会議へ代表派遣
ニ 臨時に仏教徒の国際会議が開られた場合の代表派遣
3. 訪日各国仏教徒の歓迎等（接待基準による）
イ 歓迎、歓送
ロ 歓迎会の開催
ハ 会議の開催
ニ 訪日仏教徒と日本各地仏教徒との交流の為の案内
4. 在外日本仏教徒連盟並びに各宗開教本部との連絡
5. 各国仏教会との文書による交流。
6. 訪日仏教徒に対する日本仏教ガイド書の作成の研究。
7. 其の他仏教徒の国際交流上必要と認められる事項

文化局

基本目標 本会寄付行為第5条の事業目的たる仏教文化運動の総合的企画及び促進に目標を置き、全一仏教運動推進の一翼を担い、仏教文化運動を中心として事業を立案しその実現を期する。

1. 文化会議の開催。東京、他主要都市2ヶ所
2. 第13回全仏講習会の開催（岡山）
3. 「現代仏教読本」（仮称）の編纂
4. 仏教文化映画製作の企画研究（継続）
5. 「仏教徒の教職員連盟」の結（継続）
6. 「全一仏教聖典」の編纂（継続）

昭和43年度 財団法人全日本仏教会歳入歳出予算

歳 入

1 金 19,929,000円 歳入予算高

歳 出

1 金 19,929,000円 歳出予算高

歳入歳出差引残高なし

昭和43年度 財団法人全日本仏教会歳入歳出予算

歳 入

科 目			本年度予算額	前年度予算額	比 較 ○増 △減	摘 要
款	項	目				
1. 負担金			17,929,000	16,189,000	○1,740,000	
	1. 各宗派 各負担金		15,784,000	14,403,000	○1,381,000	
	2. 各団 各負担金		2,145,000	1,786,000	○ 359,000	
2. 寄付金			1,800,000	2,000,000	△ 200,000	
3. 未納徴 収金			50,000	50,000		
4. 基金果実			40,000	40,000		
5. 雑収入			100,000	100,000		
6. 繰越金			10,000	10,000		
歳 入	計		19,929,000	18,389,000	○1,540,000	

歳 出

科 目			本年度予算額	前年度予算額	比 較 ○増 △減	摘 要
款	項	目				
1. 事務局 総費			11,110,000	10,450,000	○ 660,000	
	1. 人件費		6,840,000	6,180,000	○ 660,000	
		1. 職員俸給	4,030,000	3,990,000	○ 40,000	
		2. 諸 給	2,160,000	1,590,000	○ 570,000	
		3. 厚生費	400,000	400,000		
		4. 退職積 立 金	250,000	200,000	○ 50,000	
	2. 事務費		1,970,000	1,970,000		
		1. 借館借 室 費	600,000	600,000		
		2. 通信費	850,000	850,000		
		3. 消耗費	100,000	100,000		
		4. 光熱費	20,000	20,000		
		5. 備品費	150,005	150,000		
		6. 印刷費	200,000	200,000		
		7. 雑諸費	50,000	50,000		
	3. 旅 費		1,100,000	1,100,000		
	4. 関西事 務局費		1,200,000	1,200,000		
2. 総務局費			2,300,000	2,350,000	△ 50,000	
	1. 会議費		950,000	950,000		

		1. 理事会費	150,000	150,000		
		2. 評議員費	100,000	100,000		
		3. 各種委員會費	200,000	200,000		
		4. 會議費	500,000	500,000		
	2. 共通事項		350,000	350,000		宗連負担金 登記料等
	3. 調査研究		300,000	300,000		
	4. 渉外費		700,000	750,000	△ 50,000	
3. 組織局費			3,350,000	3,100,000	○ 250,000	
	1. 組織強化		1,800,000	1,900,000	△ 100,000	
		1. 組織強化費	700,000	600,000	○ 100,000	
		2. 仏教徒費	1,100,000	1,300,000	△ 200,000	
	2. 時局対策		500,000	400,000	○ 100,000	
	3. 広報費		1,050,000	800,000	○ 250,000	
		1. 機関発行紙費	950,000	700,000	○ 250,000	
		2. 宣道伝報費	100,000	100,000		
4. 国際局費			1,500,000	910,000	○ 590,000	
	1. 国際運動		1,500,000	910,000	○ 590,000	W・F・B日本支部運動費合
		1. 世界仏教徒文化交流費	100,000	160,000	△ 60,000	
		2. 国際仏教運動費	950,000	300,000	○ 650,000	
		3. 国際渉外費	450,000	450,000		
5. 文化局費			1,500,000	1,400,000	○ 100,000	
	1. 文化會費		400,000	400,000		
	2. 教化費		1,100,000	1,000,000	○ 100,000	
		1. 講習會費	200,000	200,000		
		2. 教化諸費	700,000	600,000	○ 100,000	
		3. 資料作成費	200,000	200,000		
1. 雑費			54,000	64,000	△ 10,000	
7. 予備費			115,000	115,000		
歳 出 計			19,929,000	18,389,000		

茨城仏教会役員総会

茨城県仏教会では、昨年十二月二十九日役員総会を水戸市神応寺で開催、川田聖見会長を座長に四十八名が出席し左の通り審議議決した。

一、会則一部変更の件

本部事務所を会長任職寺に置く。但し、都合により他に事務所を置くことが出来る。事務移転交渉を黒田坦海・桜井洞門・南靈光の三元老に一任。更に総務部長大越孝仁、組織部長曾根田俊雄師を選出した。

二、外護団体結成に関する件

賛助会員五千名募集。名誉・特別会員募集。

三、檀信徒大会開催の件

四月中を目標に水戸市文化会館に約三千名を集め開催予定。

四、仏舎利塔建設の件

建設委員会を組織し、事務局を開設する。

昭和四十三年一月八日水戸市祇園寺で事務局会議を開催、左の案件を審議した。

一、賛助・名誉・特別会員募集に関する件

イ、県内全寺院へ呼びかける方法
ロ、各宗務機関、地域仏教会へ呼びかける方法

二、会報発刊の件

イ、春分彼岸号を発行する
ロ、加入各会員の氏名発表

八、年四回、正月・春秋彼岸・益

三、各部に副部長・主事若干名を置く。
四、会長委嘱の評議員を各宗派より選考し、そのうちより理事を選出。選出方法次の役員会に諮る。

五、県檀信徒大会の実現を期す。
六、賛助会員募集帳を正規に印刷し、各依頼する。
七、毎月一回事務局会議を開く。
八、事務局構成

事務局長小松泰寿、同次長土田正道、総務部長大越孝仁、同副部長原教仙、組織部長曾根田俊雄、同副部長佐々木秀格、計理部長奥田俊亮、同副部長六戸莊一、教化部長国香真成、同副部長未定、広報部長小松泰寿、同副部長未定、主事目下人選中。尚、会長秘書に猪瀬宝山。

茨城県豊山派

宗教法人法寺務処理講習開催

真言宗豊山派、茨城県第一号、中部支所連合主催で一月十四日雨引観音宗法寺で開催。県庁学事文書課長、係長を講師として、寺院財産処分、会計処理等実務の講習が行なわれ、五十六名の受講者は熱心に聴講した。(茨城発)

埼玉県仏教会役員会

埼玉県仏教会では、さる一月十一日午前十一時から大宮市大谷派安楽寺において県仏教会役員会が開催され、倉持秀峰会長以下県仏理事、教化委員二十四名が出席し当面の事業について協議した。なお全仏から柳組織部長が出席し全仏の運動方針等について説明した。

神奈川県仏教会

常務理事会及び新年会

去る一月三十日午後三時より川崎大師平間寺において神奈川県仏常務理事会が開催され、全仏からも稲田事務総長、福

井組織局主事が出席し種々の報告がなされた。終了後新年会が開催された。神奈川県仏常務理事会の協議事項は次の通り。

一、副会長選定について

永年副会長として仏教興隆のため尽力された吉水智承師が退任したのでその後任の選定。保留。

二、財団経過報告

能登事務局長より一月末日現在までの記帳総額は九百二十万円也との報告。(註)神奈川県仏教会では明治百年、県仏創立三十周年記念事業として、県仏教化財団の設立を推進、県仏教徒大会の決議により行なわれている。

三、慈徳会友の会について

(註)神奈川県仏事業の一つとして設立し、家庭裁判所で未判決の青少年を一時あずかり、悔悟遷善させるものとして二年前より行なわれている。尚、参考までに「友の会規約」一次の通り。

神奈川県仏教慈徳会後援「友の会」規約
第一条(名称) 本会は「神奈川県仏教慈徳会後援友の会」(略称「慈徳友の会」と称し、事務所を仏教慈徳会内に置く。
第二条(目的) 本会は仏教慈徳会の実施する諸事業が適切強力に推進されるよう後援すると共に会員相互の親睦を深め、青少年問題に対する一般の関心を喚起することを目的とする。
第三条(事業) 本会はその目的を達成するために左の事業を行う。
1. 慈徳会の事業運営に必要な経費の助成
2. 講演会、研究会、その他必要な事業

第四条(会員) 本会の目的に賛同する個人及び団体を会員とする。

個人と団体会員は各々正会員、賛助会員、特別会員から成る。

第五条(役員) 本会には委員七名以内を置き、互選により一名を委員長とし、二名を常任委員とする。委員長は本会を代表し、委員会を主宰する。常任委員は本会の庶務及び会計を処理する。

任期はすべて二年とする。

第六条(会費) 本会各種会員の会費は左の通りとする。

個人 正会員 年額 千円以上
個人 賛助会員 " 五千円以上
個人 特別会員 " 一万円以上
団体 正会員 " 一万円以上
団体 賛助会員 " 五万円以上
団体 特別会員 " 十万円以上

四、第二回仏教関係商人打合せ

(註)石材商・葬儀商・仏具店・墓地茶店等の組合長と会合し、相互の理解を深め、仏教行事・儀式・教化面で善処する。

五、宗教法人講習会について

文部省の昭和四十二年度関東甲信越静地区宗教法人実務研修会の実施状況報告がなされ、宗教法人のより適切な運営のため、県下各地で講習会を行なうことが申し合わされた。尚、実施状況報告要点は次の通り。

一、法人管理の心構えとして
1. 法人意識 2. 自律能力 3. 時代感覚を強調
二、基礎的留意事項として
1. 実績の反省と記録 2. 資料の整備
3. 法・規則包括団体の制約事項等の理解
4. 規則・規程の整備 5. 法・規則等で定める事項の誠実な実行 6. 実

情に即した創意工夫

三、事務運営上の注意事項として

1. 規則書及び認証書の厳格な保管

2. 役員名簿の整備 3. 財産台帳(一

点千円以下は記帳不要) 4. 財産目録

5. 収支決算書 6. 会議録 7. 事務

処理簿 8. 予算書 9. 金銭出納簿

10 収入・支出訳簿 11 支出証拠書類

等の整備

四、国税については

1. 法人税 2. 宗教法人の営む収益事

業の範囲 3. 源泉所得税徴収事務に注

意

五、地方税については

1. 境内地境内建物に対する固定資産

税、都市計画税、不動産取得税の非課税

今秋の岡山大会

十月一・二の両日に変更

全日本仏
教徒会議

本年十月中国地方ではじめて開かれる

第十六回全日本仏教徒会議岡山大会は、

最初十月三、四日の両日を内定していた

が、大会場にあてられる県体育館が都合

つかず急遽予定を変更し一、二の両日に

繰上げて開きたいとの要請にもとづき、

全仏では協議の結果日程変更を了解しそ

の旨を岡山県仏当局へ回答した。

岡山県仏では、既報のとおり昨年秋季よ

り準備会をひらき着々と準備をすすめて

おり大会の成功が大いに期待されてい

る。

なお同県には高野山真言宗寺院が多数

取扱い 2. 目的外使用をする場合の取

扱い 3. 墓地問題 4. 幼稚園の固定

資産の取扱い

六、その他として

1. 寺院規則、細則の時勢に即した再検

討の要 2. 出張所、布教所等に規則の

写し、役員名簿等を整備すべきこと(固

定資産税の免脱証明などの際必要)

3. 予算の議決を確実に(代表役員の金

銭使用権限が発生しないから) 4. 「公

衆礼拝の用に供する建物」登記を急ぐべ

きである 5. 代表役員の印鑑を作るこ

と(代表役員個人印は不適当) 6. 要

するに、抵抗の弱いところに社会的圧力

が加わりつつある現状を、代表役員たる

者は自覚すべきである。

都において開かれた全国宗務総長会議席

上において、高野山真言宗々務総長草繁

全弘師から宗派としても全面的に協力し

ていきたいとの発言があり、また同会議

に出席した各宗派総長も年一回の全国大

会をぜひ成功してほしいとの意見が活発

に行なわれた。

全仏当局では、明年度の仏教講習会も

岡山県下で実施することに内定しており

その前後に中国、四国地区ブロック会議

をもつなど、重点的に大会を盛り上げて

いくように計画がすすめられている。

なおこうした計画にもとづき、近く現

地との準備協議会が開かれ詳細にわたっ

て決定することになっている。

仏婦連で修正会

社団法人全日本仏教婦人連盟では、一

月二十二日午前十一時より音羽の椿山荘

において修正会が盛大に行なわれた。

まず仏婦育成にあたって尽力された高

階前曹洞宗管長の追悼読経が尼僧法団の

出仕によって厳修され、つづいて全仏来

馬理事長の追悼法話があったのち、修正

会にうつり各界代表のあいさつが行な

れた。

なお、ベトナム大使夫妻も出席されあ

いさつを行なったが、全仏婦連、尼僧法

団が昨年末ベトナムの戦争孤児に日本人

形をおくる運動をつづけているが、この

美挙に対して現地から非常に喜ばれてい

るのでさらに推進するとともに、これか

ら衣類等を全国的に集めて大使館を通じ

ておくる救援活動を全員一致で承認し、

強力にすすめることを山本杉理事長の提

案で行なわれた。

当日は百数十名の出席者で賑った。

国際仏教交流センター

設立準備会開かれる

第十五回全仏岐阜大会において孝道教

団より提出された、「仏教の国際交流を

積極的に行なう」という議案が満場一致

で可決されたので、これに基づき国際仏

教交流センターを設立しようという議が

孝道教団の肝入りで盛り上がり、去る一

月二十七日午後三時より同教団青年会館

において、その設立準備会が開かれた。

スウェーデン名誉大僧正
グンナーフルトグレエン博士
全仏を訪れて歓談



中央同博士

スウェーデンのグンナーフルトグレ

ン名誉大僧正(プロテスタント)が約二

週間の予定で去る二月十二日来日した。

同師は日本仏教に深い関心を持って居

られる由で、駐日スウェーデン大使より

本会に対し日本仏教徒との会談の機会を

持てる様とってはからって欲しいという申

し入れがあったので、二月十五日午後二

時より一時間余本会主催により、築地本

願寺において極めて友好裡に会談が行な

われた。

出席者は左の通り

来馬理事長、稲田事務総長、各局長、

国際専門正副委員長、仏書贈呈訪欧使節

団で同国を訪問した村上道隆、丸岡興舜

・西寺律洲等各師。

日仏保で名誉役員会

日本仏教保育協会では、二月五日東京

市ケ谷私学会館で名誉役員会及び懇親会

を開催し、昭和四十三年度事業計画及び

予算・社団設立等につき協議した。さら

に同様京都において関西地区でも開催

し、決定する。全仏から桜井文化局長、

福井主事が出席した。

宗派・県仏人事（就任）

天台宗務庁

宗務総長 杉谷 義周

庶務部長 木下 寂元

財務部長 宮嶋 賢純

参事部長 武 覚円

総務部長 山田 俊秀

参事 山田 俊秀

社会部長 山田 俊秀

和宗四天王寺

副住職 塚原 徳成

執事長 吉田 秀映

曹洞宗

曹洞宗管長 岩本 勝俊

大本山総持寺管長 佐藤 泰舜

大本山永平寺管長 佐藤 泰舜

天台宗

輪王寺門跡 杉谷 義周

寶永寺住職 杉谷 義周

熊沢泰禪師（曹洞宗大本山永平寺管長）

一月七日急性気管支炎のため

永平寺で死去。十三日同寺で密



寺のお紙表

○ 真宗大谷派善照寺（台東区西浅草一ノ四ノ十五）

○ 東京本願寺の門前で歴史も古く慶長年間創立である。

○ この本堂は昭和三十四年に再建され、今日に至る。

○ 設計は白井辰一氏。施工は竹中工務店。
○ 伝統を本とし白と黒の配色をうまく使った近代建築である。

昭和四十三年三月一日 発行
三月号 第一三三号

発行人 伊藤 勝淳

編集人 柳 了堅

東京都中央区築地三十一番一（本願寺）
発行所財団法人 全日本仏教会

葬。師は昭和十九年二月大本山総持寺七十二世貫首、五日後に大本山永平寺七十三世貫首を歴任した。

岩野真雄師（浄土宗浄閑寺住職・全仏元常務理事・文化局長）

一月九日、脳軟化症のため、荒川区南千住二ノ一ノ十二の同寺で死去。七十四才。師は永年大東出版社社長として仏教圖書の出版事業に尽くし、又全仏常務理事・組織文化局長として仏教界に多大の貢献があった。

高階瑞仙師（曹洞宗管長、全仏元会長）

一月十九日心臓せん息のため東京通信病院で死去。駒沢大学教授、大本山総持寺、同永平寺貫首。昭和十九年曹洞宗管長に就任。二十五年開催の第一回世界仏教徒セイロン大会の日本代表。二十七年開催の同日本大会

の総裁。全仏会長前後二回就任、仏教界に大きな足跡を残した。本葬は五月四日永平寺東京別院（東京都港区西麻布二一二十一―三十四）で行なわれる。九十一才。

福田まさの（全仏事務総長福田稔界師母堂）

一月二十日江東区深川三好町一の三の正覚院で死去。九十三才。

石附賢道（曹洞宗大雄山最乗寺住職）

昨冬、群馬双林寺から晋住したばかりであったが一月二十八日急逝された。詩偈は有名、若くして法隆寺勸学院に学んだ、行学兼備の禅僧でその速かな遷化は広く惜まれていた。七十二才。

全仏ベトナム 救援募金の報告

本会のベトナム救援運動は、去る昭和四十一年四月八日、東京日比谷公園において、ベトナム救援決起大会を挙行し、引き続き街頭募金を行ない、その後加盟各宗、各団体の協力を得て、浄財の御寄進を頂きました。

この救援金は三回に分けて、ベトナムに送り、一切の事務が終了したので、昨年十二月二十一日、東京都庁へ募金収支報告書を提出して、この運動に一応の終止符を打った。

仏教はヨガから発足した

ヨガと仏教

ヨガの行法を習得すれば
仏教の教えは自から実行される

ヨガの膂体呼吸法

自然良能作用の増強・常に健康
自己防衛力の増強！ 常に安全

生きてる

般若心経の解説

眼に飛び込んでくる般若心経の内容！
無限大に展開する生活の営み

定価 550円 価 250円 価 250円
50円 50円

全国書店発売中 書店品切れの際は版元
在庫につき取次店から取寄せるように指示して下さい
東京都中野区江原町2丁目1番7号
株式会社 霞ヶ関書房 振替東京 26254
電話 (951) 3407

募金収支は左の通りであります。

収入の部
一、金七五八、三一九円也
(救援募金収入)

一、金三〇八、二三〇円也
(決起大会及び募金活動に対する寄附金)

支出の部
一、〇六六、五四九円也

一、金三〇〇、〇〇〇円也
(ベトナム医療奉仕団に託し、南ベトナム難民救済)

一、金一〇〇、〇〇〇円也
(ベトナム・バンハン大学へ援助金)

一、金三五八、三一九円也
(日本赤十字社に託して北ベトナム難民救済)

一、金三〇八、二三〇円也

(決起大会、募金活動、宣伝印刷、交通費)
計金一、〇六六、五四九円也

あとがき 昨年十一月末に、全仏役員員の任期満了による新人事が決定し、向う二ケ年間大谷光暢会長、来馬道断理事長のもとに全一仏教運動を強力にすすめることになった。

事務総局も福田稔界事務総長のもと、すでに四十三年度の事業計画、予算等も理事会、評議員会等で承認され、気分一新全仏本来の目的に向って前進する態勢ができた。

全国仏教徒のかわらざる御協力と御叱正をいただきます。

(柳)